

目と学習について

皆さんは自分の「利き目」がどちらかご存知ですか？利き手があるように利き目があるんですね。

灰ちゃんゴロク2

自分でやりたい遊びを自分で決めて最後までやりきると発達する

子どもがやりたい遊びは自然とその子の発達を促すことにつながっています。子どもは自分が何をしたら発達するのか本能的に知っていて、繰り返し同じ動きをすることがあります。そんな時はすぐに手を出さずに、しばらく見守ってあげて。

見え方に問題があるのかもしれない

黒板をノートに写すには両目のチームワークが大事。これがうまくできないと学習が困難になることも。

さらに深く知りたい方にオススメ！

人間脳を育てる

ナルホドが詰まった一冊です！

講演会に参加したお母さんたちの声

子どもは、自分の発達に今必要なことを本能的に知っていて、それを遊びを通して行っているなんて、思いもよりませんでした。もっと子どもの遊びを大切にし、子どもが、飽きるまで遊ぶのを見守る余裕を持てるといいなと思います。そして、子どもの持つ本能的な力を信じていきたいです。

辻井幸さん(香美市)

子どもは天才！灰谷さんの講演会は2回目ですが楽しくて目からウロコが落ちまくりました。大人の狭い世界におさまらない広い世界を子どもは持っている。大人は子どもから学ぶことができる。親は子どものしたいことを遮っていないか、見守ろう。何もとらわれず楽しく生きよう。素敵なメッセージが満載でした。

北川弘美さん(高知市)

私は講演会で体験した「落とすな風船」が面白かったので主人と一緒に遊んでみました。初老の2人ですが、若々しくなって頭も体もほぐれ気持ちよかったです。そのあとの事務仕事も集中してできました！年を重ねても、遊びを通して発達できると知って、うれしくなりました。

高木真由美(香美市)

「利き」は先頭という意味なんです。だから利き目が右の人は右目が先に焦点を合わせ、左目はその後についてくる。両目で見ることは、両目同時にピッと合うわけじゃないんです。すごく複雑なことを右目と左目が助け合っているんです。

灰谷孝さん

発達支援コーチ

灰谷孝さんは、ご自身も子育て真っ最中のお父さん。そんな灰ちゃんのお話の中には子育ての悩みを解消するヒントがいっぱい。これを読んで、どんどん笑顔になってください。ね。それでは、紙面講演会の始まり始まりー！！

見る能力を伸ばすためにお母さんができること！

実は、見る能力は生まれてから発達する能力です。両目をうまく使えるようになるために、お母さんが子どもにしてあげられることがあります。子どもと一緒に身体を使って思いっきり遊んでください。そうすると見る能力が伸びます。集中力も伸びます。見る能力が伸び悩んでいる子には、バランス遊びを試みてみてください。大事なことは遊びながら身体を動かすことです。

見る能力(視覚発達)というのは、両目で見るということ「よく見えること」「イメージ通りに身体を動かせること」です。お母さんたちはお子さんの目がうまく働いているか、目の動きに無理がないか、見てあげてください。

あと、小さい頃のゲームやスマホはやめましょう。目への影響だけでなく、あの光の刺激が「心の脳」に直接影響し、麻薬のような「依存」を生むからです。やってもいいけどほどほどに。やったらその分身体を動かして遊んでほしいです。

今日は長い時間ありがとうございました。何か一つでもお役に立つことがあればうれしいです。

お母さんたちの声

見る能力が伸びると集中力が伸びます。身体を使って遊ぶと脳が発達します。

お母さん遊びましょう！

発達のパラダイム

言語・コミュニケーション

言葉

動き(姿勢)

感覚

呼吸

発達を土台

言語や学習・コミュニケーションは、呼吸・感覚・動きの発達の土台に支えられています。子どもと一緒に身体を使って遊びながらやりとりをして、発達の土台を強くするためのサポートをあげよう。

おしくまんじゅう

背中合わせになって押し合いながら全身を動かし合う

お母さんも恥ずかしがらずにやってみよう！

仙骨グリグリ

背骨を動かす

子どもはみんな天才！自分で伸びる力を持っているよ！

灰谷孝さん

発達支援コーチ

灰谷孝さんは、ご自身も子育て真っ最中のお父さん。そんな灰ちゃんのお話の中には子育ての悩みを解消するヒントがいっぱい。これを読んで、どんどん笑顔になってください。ね。それでは、紙面講演会の始まり始まりー！！

必要ない情報は脳の中に入っていない

必要ない情報は脳の中に入っていない

遊びと発達について

お母さんが心配して「ちょっと言葉の出も遅くて、落ち着かないんで」という6歳の男の子が僕のところに

灰ちゃんゴロク1

胎児から成人まで発達支援は働く支援

社会の中でより良い未来のために自分は何ができるか？を考えることができる脳の働きは人間だけが持っているもの。自分自身の想いやアイデアを身体を使って表現し、実現できるようになってほしい。

シャボン玉は最高の呼吸のトレーニング

「押したり引いたり」はコミュニケーションの基本

バランス遊び

両足で立って両腕で押し合い足が動いたら負け

みんな笑顔！

ふんばる

バランスをとる

見たい！聞きたい！コレ知りたい！

vol.03 灰谷孝さんの講演会「目の発達と学習力」より

灰ちゃんこと灰谷孝さんは、ご自身も子育て真っ最中のお父さん。そんな灰ちゃんのお話の中には子育ての悩みを解消するヒントがいっぱい。これを読んで、どんどん笑顔になってください。ね。それでは、紙面講演会の始まり始まりー！！

講演会は2017年6月に桜井幼稚園で行われました。

はじめに

灰谷孝と申します。僕は発達障害やグレーゾーンといわれている子どもたちと遊ぶ「発達支援」の仕事をしています。今日は皆さんに発達支援を通して子どもたちから日々教えてもらっていることや感じたことをお話させていただきます。

ちよつとクイズを出します。

バスケットボールの練習動画が流れるー黒いチームと白いチームでそれぞれパスをします。皆さんは白いチームが何回パスをするか数えてください。

白いチームのパス回数を数える聴講者ーではもう一つ聞きます。画面中央に熊の着ぐるみが通り過ぎて行ったのは見えましたか？

誰も熊の着ぐるみは目に入っていないーではもう一回確認してください。

熊の着ぐるみが見えるー

実は最初に見た時もあの熊の着ぐるみは皆さんの目の中には入っていないのですが、集中して白いチームを見ていたで、脳が「必要ない情報」と判断して消して見ていたんです。

これを専門用語で「選択的不注意」と言います。選んで不注意を起こすという人間の脳の働きのことです。

例えば、本を読んでいる時、周りでも子どもがワイワイ遊んでいる時、皆さんはそれを気にせず本が読めますよね。そういった状態のことです。

脳を刺激！コミュニケーション力を養うかんたん親子遊びをやってみよう！

いわゆる『多動』落ち着かないといわれている子どもの中にはこの選択的不注意が脳の中で機能しない子がいます。

だから目に入ってくるものの全部が気になってしまふ。集中しないといけない時に近くで何かがワウッと見えたらそっちを見てしまふ。こっちにもあれがある「あ、なんかある！」ってじっとしてられない。

でもそれって、見つけることが得意なんだとも言えます。僕が働いていたダスキン営業マッパとモップが必要ない現場をたくさん新規開拓して契約してもらった仕事やたらきつと優秀な営業マンになりますよ笑

つまり社会に出ればこういう特徴も能力なんです。でもこの子たちが学校へ行つて「座れ！」と言われたらそれは苦痛なんです。うちの子は先生の話を聞けないと、お母さんは悩みます。

僕はそういう子たちが社会に出た時、自分の持っている個性の中から能力を生かせるようになってほしいし、求められているその場で集中できる能力も伸ばしてあげたいと思っています。

落とすな風船

風船を膨らませ落とさないように2人で向き合いキャッチボール

目で追う

上を向く

頭グリグリバトル

相手のお腹に頭を押し付け30秒程キープ！

お腹に力！

頭を下げる